試合運営について（船橋市野球協会少年学童部特別ルール）

2017年3月改訂
2019年3月改訂

＊選手の準備運動及びアップについて(グランド内にて)

各大会開催日の第1試合

試合が行われる面の外野部分を使用して実施する。（センターを境界線とする。）

トスバッティング　試合開始予定時間の1時間前までは認める。
（トスバッティングとは守備の選手を配置しない状態で行い
選手同士でなくても良い）

バント　試合開始予定時間の30分前までは認める。

素振り　⇒ベンチ入りまで認める。（外野部分において指導者が立ち会う）

選手へのノック　指導者のみが行える。（バットの使用を認める。）

投球練習　ベンチ前にて1組までは認める。（ベンチ入りの時間まで）

各大会開催日の第2試合目以降

学童部管理下の場所において、選手及び指導者がバットを使用することを禁じる。
（学童部より貸与された面において、試合前のチームが練習する場合も同様とする。）

前の試合終了前までは、指定された場所にて実施する。
(特に大人面の外野部分においてのアップについては、事業部の指示に従う。)

選手のバットを使う練習は認めない。

準備体操及びキャッチボールのみを認める。

試合前は、試合面の外野部分を使用する。

試合前の選手へのノックは、指導者のみが行える。（外野でのみバットの使用を認める。）

素振りは、⇒ベンチ入りまで認める。（外野部分において指導者が立ち会う）

＊指導者について

グランド内に入れるコーチは、ベンチ登録コーチだけである。
（30・29・28番の監督・コーチで　代表・スコアラーは入れない。）

但し　第1試合のみ試合開始予定の30分前までは、補助コーチとして
無番のコーチ（ユニフォーム姿）のグランド入りを認める。

ベンチ入りまでは、ベンチ登録コーチの練習補助を認める。
（ベンチ前での投球練習の捕球を認める。）

＊その他　留意点

＊ シートノック時のノッカーの立ち位置をインフィールド内に限定しない。
シートノック終了後、ホーム付近の整備、ライン引きを実施する。
(但し全日本学童千葉大会・関東学童(春・秋)千葉。少年野球連盟等の主催試合は)
(大会毎に確認する。)

＊ ネクストバッターボックス内の姿勢
バットを持ち、立った姿勢を推奨する（素振りは出来ない）,座っても可
（ファールボール等への対応において　安全を期するため）

＊ シートノック時おいて　投手が捕手への投球は認めない。
2塁・3塁への捕手の送球の際　投手ではなくノッカーが行う。
（投手の投球練習と見なされるため　禁止する）

＊ 安全を考慮しグローブの紐の結びを徹底する。
スパイクの紐及び留め具の確認をする。

＊ ランナーコーチャーの選手は、円陣に参加することなく位置につく。
タイムゲームのため、試合進行を意識してもらう。

＊ 控え捕手の準備をおこなう。
道具等が不足している場合は、立っての捕球体勢を取らせる。
控え捕手が出ることなく、正捕手の道具の装着を待った場合は
準備投球を省略することがある。
この判断は、試合担当の4人の審判員とする。
タイムゲームのため、試合進行を意識してもらう。

＊ 捕手の野手へのサインを行う場合は、キャッチャーボックス内のみ認める。

＊ 投手と内野手とのサイン交換がある場合、投手が明らかに応諾の姿勢を
取った場合に　審判員がボーク（遅延行為）を宣告することがある。
（県少年野球連盟審判部にて確認済）
（但し、運用については　試合担当審判員に委ねる。）
タイムゲームのため、試合進行を意識してもらう。

学童部の管理下の場所において、すべての選手がバットを使用することを禁止する。
但し、素振りに関しては上記の規定内においては認める。

各チームの指導者においては、試合前の練習の際　選手たちの安全確保の
ため、必ず選手の近くに付き添い　周囲への配慮を行う。

選手任せの練習については、注意及び中止を勧告する。

試合中、守備側の捕手が道具を装着する場合、ネクストバッターサークル付近にて行う。
（コーチ等が装着の補助を行い、試合進行を意識する。）

試合中の投球練習の際は、必ず捕手は道具を完全装着して行う。
（必ず捕手の位置を、外野側にして行う事。）

攻守交替時での守備側の控選手の並ぶ位置は、コーチャーボックスの後ろのラインを
目安とする。（試合会場により、変更をすることがある。）

メンバー表の作成において、フルネームでの記入及びふりがなの記入を励行する。

＊上記においての「指導者」とは、ベンチ登録コーチ（30・29・28番）を指します。
＊当日の運営において、事業部と審判部の判断で　上記の内容を変更することがある。